

平成21年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ トミダ カズコ
氏名 富田 和子

研究期間 平成21年度

研究課題名 明治期狂俳資料の収集と整理

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	富田 和子	現代マネジメント学部	助手
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究は、近世以降現在までの東海地方の俳諧資料を収集し整理して、その特徴を明らかにすることを目的とする。特に、俳諧の盛んな地域である尾張・三河・美濃の資料を扱う。早くから、俳諧史を考える際、蕉風俳諧に代表される芸術的な方向と、前句付俳諧に代表される遊戯的な方向があることを、俳諧の実態として重層的にとらえ考察すべきことを指摘されながらも、遊戯的な雑俳を含む研究は少ない。いまだ芭蕉及びその門人に片寄る傾向がある上、地方の俳人・俳壇に関する研究は手薄である。狂俳関係のものなどは、散逸してしまうことが多い。それを防ぐためにも、急いで調査・研究する必要がある。

2. 研究方法等 (300字以内で記述)

東海地方で江戸時代後期から行われ、現代も愛好される文芸に狂俳がある。本研究は、地方に散見する個人蔵を含むそれら埋もれた資料の中で、明治期のものを中心に収集・整理する。そこから見えてくる愛好者の短詩型文芸に対する取り組みから、当時の愛好者の「俳諧」意識について考察する。具体的には、次の手順でおこなう。

- 1 所蔵者らから聞き取り調査をする。
- 2 個人蔵の資料を借用し、デジタルカメラやスキャナをつかって、デジタルデータを作成し、その特徴を検討する。
- 3 地方の図書館・博物館所蔵の埋もれた俳書や引札類の収集と整理を行う。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

名古屋の狂俳界は、明治12(1879)年3月「狂俳名吟新誌」(松風社刊)創刊以後、月次集の創刊が続き、第二次隆盛期を迎えた。この風潮の中、芭蕉の「古池や」の句から「水の音」を社名とした水音社が設立した。これによって、同15年に名古屋で創刊された狂俳雑誌が、「水の音」(月次集、淇水堂刊)である。

この「水の音」は、その後、角書に変遷はあるが、ほぼ毎月1回、少なくとも大正5(1916)年頃発行の306編まで、35年間続き、名古屋の狂俳活動の中心的存在であった。いまだすべてを見てはいないが、調査の過程で初期の雑誌を手にすることができた。そこには、上位句を掲載するだけでなく、初編から16編(13編は欠丁か)までに序が付され、撰者たちの意気込みが感じられた。

ところで、先に「名古屋『雅風教会規約』にみる教導職制度の影響」(「椋山国文学」33号)をまとめ、そこから伝統の意識と革新の意欲がみてとれた。それは、明治期の東海地方の俳壇では、教導職制度を取り込み活用して、勢力の拡大をはかりながら、蕉風俳諧の伝統を受け継ぐ意識と、蕉風とはひと味違った独自の俳諧をめざす革新の意欲が共存したことを論じた。その雅風教会は、明治20年にこの「水の音」の撰者たちによって設立することになる。

そこで、「水の音」の初編から16編(13編を除く)までの序と41編序を翻刻紹介し、販売書店、撰者各員録を末尾にまとめて紹介した〔「翻刻「狂俳水の音」序(初編から十六編・四十一編)」(「社会とマネジメント」7-2掲載予定)〕。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

① 明治	② 狂俳	③ 水の音	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

公開した研究成果

富田和子、「翻刻「狂俳水の音」序(初編から十六編・四十一編)」、「社会とマネジメント」(椋山女学園大学現代マネジメント学部)、2010年、第7巻第2号 掲載予定